



新年を迎えて

桜門山岳会会長 原田 洋
会員、部員の皆さま謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年は東日本大震災復興元年と言われましたが、被災された方々にとっては政府の対応に今一つスピード感が感じられなかったのではないのでしょうか。然し昨年全国の人々の応援、ボランティア活動を通じ絆の大切さを実感した方も多かったと思います。

桜門山岳会・山岳部も「復興をめざす東北の高校生富士登山」にボランティアとして参加、被災地の若い人々との交流も出来ました。

山岳部も久々に2桁の部員数になり例年になく活発な活動が出来る様に成りました。

その中で、飯田 CL の JAC 学生部ザンスカール遠征に参加、初登頂することが出来ましたし大学側に対する山岳部の存在感をアピール出来たのではないのでしょうか。(日大新聞、朝日新聞に掲載)また、OB 各位の活躍も特筆すべきではないのでしょうか。日本の山岳界をリードしている神崎日山協会長、尾上 JAC 会長及び各支部で奮闘されている多くの OB の方々の活動は新たな年に成っても引き続きご活躍される事でしょう。伝統ある日本大学山岳部・桜門山岳会を支えてこられた OB の方々の更なるご活躍を祈念する次第です。

2013年は春に学生のヒマラヤ遠征、新入部員5名以上の獲得、再来年の山岳部創部90周年イベントの準備等案件が目白押しです。それらの案件を進める為には資金力が欠かせません。或る著名人が「生きることは借りを作る事・生きることは借りを返すこと」と言われた様です。

立正大OB竹内氏による八千メートル峰14座も成功し今後の目標は何なのかを模索する時代に成りましたが、山が有る限り今後も新たな挑戦、スポーツとしての登山が脈々と湧き出てくると思います。山岳部も学生支援部へ移行後予算の減少により活動が厳しく成っていますので次世代を担う山岳部学生諸君への多大なるサポートが必要な時代に成って来ました。OB各位に於かれましては今後ともご支援を賜りたくお願いする次第です。

最後に本年が皆さまにとって幸多き年となります事をお祈り申し上げます。

平成24年度 理事・評議委員会報告

9月25日(火)千石部室(出席者:原田、大谷、古野、若林、学生)

- ・学生の山行報告: 計画及び学生部ザンスカール遠征帰国、来春学生ネパール遠征について。
- ・秋季天幕懇親会について。
- ・マラソン大会及び神奈川大学校内でのフリークライミングコンペ。

10月30日(火)千石部室(出席者:山本、原田、高澤、大谷、古野、学生)

- ・学生の山行報告: 10月17日~19日冬山での北鎌残置器具撤収。

- ・ザンスカール遠征報告会について、学生のアイランドピーク遠征について。
- ・来年のスキー懇親会（2月16日～17日啄木鳥山荘）について。
- ・新年会の案内、往復ハガキにて対応。

11月28日（水）フェニックス喫茶店（出席者：原田、高澤、大谷、古野）

- ・学生の秋山合宿、及び初冬合宿（八峰尾根）について。冬山合宿は現在の所未定。
- ・学生の春山ネパール遠征計画（アイランドピーク）について。
- ・短信161号12月27日発送（古野事務所にて）
- ・新年会の件（1月22日火曜日第一ホテルアネックス トラットリア ラ・パランツァ）
- ・スキー懇親会（啄木鳥山荘）の件。

訃報

北極遠征に医師として参加された川久保芳彦OB（1949年入部/医）が11月2日ご逝去されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。連絡先：川久保延子様

天幕懇親会報告

参加者）24名、立ち寄りのみ（宿泊無し）4名。

<OB 13名> 石坂、中嶋、高山、大城、川崎（宿泊無し）、川崎夫人、娘さん、お孫さん、高緑、平戸、古畑、原田、望月、岸田、村木、中川、中川夫人、大谷、古野、

<学生9名> 飯田、関、横山、山浦、池田、金原、須郷、賀来



秋季天懇登山（二日目）

場所 北アルプス 焼岳（上高地から往復）

期間 平成24年10月21日（日）

参加学生 飯田祐一郎4年、関洸哉3年、横山裕3年、山浦祥吾2年、池田祥子1年、須郷直也1年、金原守人1年、賀来素直1年

参加OB 高山公明、中川夫妻、原田洋、岸田達明、村木富士、大谷直弘

行動 快晴 気温8度（行動開始時）

JAC山研～（車両移動）～焼岳登山口 6:35～焼岳小屋（新中尾峠）8:00～焼岳頂上 8:55～焼岳登山口 11:45～JAC山研 12:25



2012年秋季天幕懇親会に参加して（天幕懇親会と安曇節）

昭和33年法学部卒 高山公明



日大山岳部・桜門山岳会短信に上高地の日本山岳会山岳研究所で「秋の天幕懇親会を実施する」の案内を頂き、又同期の中嶋 啓氏からも誘いを頂き、久々の秋の上高地も好かろうと参加させて頂きました。10月20日・21日の日程で、21日は百名山の一つ焼岳登山とあります。この時期上高地は錦繡に覆われ、さぞ素晴らしい紅葉がみられると楽しみにしていましたが、

今年は今一つ目の覚める様な紅葉は見られず残念。人々であふれる河童橋を渡り林の中を行くこと5分余り、今宵の宿、山研のロッジがひっそりと建っていました。

夕食はOB原田会長、古野理事長、監督の大谷君等と学生さんによる手料理をご馳走になり、ビールで乾杯、学生時代の山の話に弾み、はしゃぎ、大いに弾論するその姿は昔と余り変わりません。天懇と言えば、小生の現役の時代、昭和30年初頭では、春は新入部員歓迎の懇親会で入笠山、秋は日光光徳沼が定着していたようです。春は、新入部員に山の魅力、楽しさをアピールするモテモテパーティー、秋は赤鬼、青鬼の居並ぶ先輩方との交流、秋の夜のキャンプファイアー、満点の星空の下で歌い、飲み且つ大いに語りあった記憶は今も懐かしくも鮮やかに残っています。こんな席で必ず歌われたのが「安曇節」でした。いつ頃から部で歌われたのか知りませんが、焚火を囲んで輪になり、先ず先輩、多分チーフリーダーが口火を切って次々と廻して歌い繋いで行くのが面白くもあり、また自分の番にはどんな歌詞にしようか緊張したものです。安曇節は大正昭和にかけて現在の安曇野、豊科松川の百姓農民たちの間で流行し、その歌詞は素朴な自然風物、山の名などを読み込んだものが多くみられます。天懇では一番目には必ずこの歌詞から始まります。「寄れや寄って来い安曇の踊り、田から畑から野山から々々」この後に、チョコサイコラホイと言う囃子の合いの手が入る。「安曇踊りと三カ月様は、次第々々に丸く成る」チョコサイコラホイ。中には艶っぽい歌詞で「一夜穂高のワサビとなりて、京の小町を泣かせたや、泣かせたや」チョコサイコラホイ。また昔OBの方々でも経験ありそうな徳本峠越えで「徳本峠でチョツと冷麦の、箸で指さす穂高岳、穂高岳」順番に廻して歌い終わるとサブリーダーが「さあ～日本アルプス、夜はほのぼのと、明けて踊りの明けて踊りの輪が消える輪が消える」チョコサイコラホイ。

東の山の端あたりから空が白んでやがて赤く染まってくる。昨今の天懇では安曇節などで無いとか、ちょっと寂しいんじゃないかな？当時は信州出身の先輩が多くいたからだろうか？

この度の天懇では焼岳登山にも挑戦しましたが体力、気力伴わず頂上はかないませんでした。原田会長や古野理事長の心のこもった温かい心遣いに感謝。大谷監督には大変世話をかけてしまい、有難うございます。最後に平成25年度の皆さまのご健康、ご活躍をお祈り致します。

注：安曇節の事についての記述は蜂谷 緑著書「常念の見える町」安曇野抄から抜粋。



↑ 焼岳頂上にて→



学生の活動報告

2012年度 冬山合宿計画

目的) 東鎌尾根からの槍ヶ岳登頂

山域) 北アルプス 燕岳～大天井岳～槍ヶ岳

期間) 平成24年12月26日(水)～平成25年1月8日(火)

(移動日1日、実働7日、予備日6日)

メンバー) 4年 CL 飯田祐一郎

3年 SL 関洸哉、横山裕

2年 山浦祥吾

1年 池田祥子、賀来素直、金原守人、須郷直也

日程)

12月26日(水) 新宿(高速バス)～松本駅～穂高駅

27日(木) 穂高駅(タクシー)～宮城ゲート～中房温泉～第二ベンチ CS1

28日(金) CS1～合戦小屋～燕山荘 CS2

29日(土) CS2～大天井岳～大天荘 CS3

30日(日) CS3～赤岩岳～ヒュッテ西岳 CS4

31日(月) CS4～水俣乗越～ヒュッテ大槍 CS5

1月1日(火) CS5～槍ヶ岳山荘～槍ヶ岳～槍ヶ岳山荘～千丈沢乗越～

中崎尾根上 p2388 過ぎの雪田 CS6

2日(水) CS6～槍平小屋～新穂高温泉

3日(木) 予備日

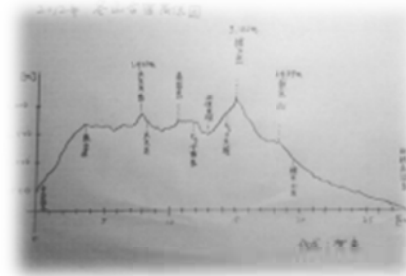
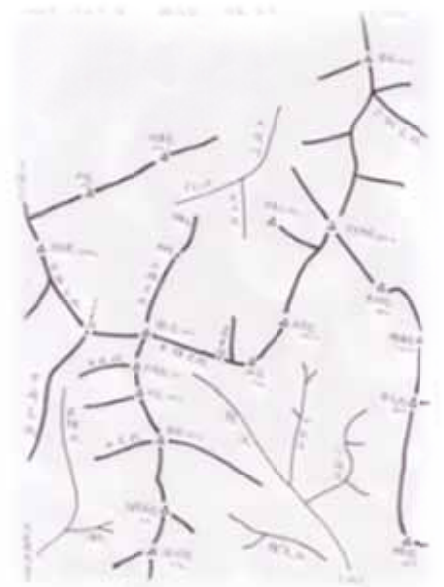
4日(金) 予備日

5日(土) 予備日

6日(日) 予備日

7日(月) 予備日

8日(火) 予備日



2012年度 秋山合宿報告

場所) 北アルプス表銀座

期間) 10月31日～11月8日

メンバー) 4年 CL 飯田祐一郎

3年 SL 関洸哉・横山裕

2年 山浦祥吾

1年 池田祥子・賀来素直・金原守人・須郷直也

行動概要



10月31日	新宿～松本～穂高駅 問題なく穂高に到着。新宿との気温差が激しい。
11月1日 雨後雪	穂高駅～中房温泉～燕山荘CS 中房温泉に着くと雨が降っていた。しばらく様子を見たのち、行動を開始する。中房温泉～合戦小屋までは急登が続く。一年生は35キロ程度を背負い頑張っている。合戦小屋からは森林限界という事もあり、強い横殴りの風を受けながら

	の行動となった。燕山荘周辺には10センチ程雪が積もっていた。夜にはさらに風が強くなり、雪も本格的に降ってきた。
11月2日 雪	燕山荘CS～燕岳～燕山荘CS 前日の降雪により一夜にして30～40センチの雪が積もった。天候は風が強く、濃いガスに包まれていたので、停滞を決める。午後になり少し天候が安定したので、燕岳往復を行う。
11月3日 晴れ	燕山荘CS～大天井岳～大天荘CS 朝、天候が不安定だったのでしばらく様子を見る。天候が安定しだったので行動を開始する。今日の行動は、出発前から大天荘にて天幕する事を決めていたので余裕を持ったの行動となった。燕山荘からは終始アイゼンを履いての行動となった。蛙岩は夏道を使いトラバースで通過。初冬を終えていない一年生には特に慎重に歩かせる。大天井の直登では、池田とその他の一年生との体力差が大きいので、隊を二つに分けて行動した。池田に飯田・横山が付き、その他は関・山浦に付いてもらい行動してもらった。夜の反省会時では、これ以上アイゼンに不慣れな一年生を連れて先に進むか、引き返すかで話し合った。また、明日以降、天気が下り坂な事は分っていた。話し合った結果、リミットや計画的に日程は問題ないので朝に天候を確認してから現場判断を行う事にする。
11月4日 晴れ	大天荘CS～西岳ヒュッテ 予想以上の晴れとなった。西岳に向けて行動を続行する事にする。赤岩岳周辺には天幕可能地が2つ程あった。赤岩岳～西岳ヒュッテまでの登山道は、所々両サイドに切れ落ちている場所があったが、皆慎重にアイゼン歩行を行い良く歩けていた。本番の冬合宿ではトラバースの連続での通過になると思う。西岳ヒュッテからは東鎌尾根が良く見え、夜の反省会では明日以降の計画を再度話し合う。結果として、一年生の技術的問題や天候、そして金原の体調不良等から明日エスケープより下山する事に決定する。
11月5日 晴れ	西岳ヒュッテCS～水俣乗り越し～横尾～上高地 西岳からの下りは梯子・鎖場の連続で、慎重に通過する。本番の冬合宿ではトラバースを2か所程計画している。いくらかアップダウンを繰り返して水俣乗り越しに到着する。水俣乗り越しまでには一か所天幕可能地があった。乗り越しでアイゼンを外して一気に下る。雪が締まっていて歩きやすい。大曲からひたすら林道を歩いた。徳沢からは明神、上高地と競争した。



← 大天井岳頂上 (2,922m)

秋山合宿・総括

今回の秋山合宿は冬合宿の偵察を行う事が第一目的であった。結果からみるとその目的を全て果たす事は出来なかったが、偵察自体にはまずまず成果を得る事が出来たと感じている。偵察のなかでも一番の重要ポイントであった西岳からの下りを歩く事ができ、また、目視ではあるが東鎌尾根を間近に偵察する事も出来た。そして、テント設営の候補地やF I Xのイメージ等と掴む事が出来た。生活技術では冬合宿に向けて何が足りないのかを確認する事も出来た。全体を通して、偵察を完遂する事が出来なかったのは残念ではあったが、初冬合宿を終えていない一年生は季節違いの大雪の中良く頑張っていたと感じた。

冬山合宿に向けて、実践訓練・机上訓練・初冬訓練をしっかりとこなし、まずは基礎を固める事に徹したいと思う。(飯田・記)

2012年度 初冬合宿報告

山域) 北アルプス北部 八方尾根～唐松岳

期間) 平成24年11月28日～12月5日

メンバー) 4年 C L 飯田祐一郎

3年 S L 関洸哉 横山裕

2年 山浦祥吾

1年 池田祥子 賀来素直 金原守人 須郷直也



11月28日 移動日 曇り	新宿～白馬町バスターミナル 予定通りに新宿を出発し、特に問題なく白馬町バスターミナルへと到着する。夜中の1時、2時頃になると次第に天気が悪くなり、山の方はひどく荒れていた。また、私達がステビバしたバスターミナルでも風が強く吹いた。
11月29日 入山日 曇り	八方尾根スキー場～ウサギ平～八方池BC 明け方になると天候は落ち着き、パッキングを済ませてゴンドラ乗り場を目指す。ゴンドラ乗り場に着くと、山頂付近の風が強くゴンドラが動いていなかった。30分ほど係りの方の指示通りに待っていると、ゴンドラの運営が決まったようで入場が開始された。去年はゴンドラが動いておらず、ウサギ平まで徒歩での移動だったので非常に助かった。ウサギ平からはリフトを使わず八方池を目指し行動を開始する。やはり例年よりも雪は多く、スキー場の斜面にはしっかりと雪がついていた。その一方で、八方池山荘からの登山道は思っていたよりも雪は少なく、脛ラッセル程度であった。テント場に着きしっかりとした風防を作る。
11月30日 雪訓 曇り時々晴れ	八方池BC～扇沢雪渓～八方池BC 出発時間が大幅に遅れての行動開始となった。扇沢雪渓には予定通りの行動時間で到着する。雪訓場までの道のりは終始膝下ラッセル程度であった。訓練は直登・直下降、ダイヤモンドをアイゼン、ワカンの交互で行い、その次にロープワークを行った。ロープワークではフカフカの雪での支点作りに戸惑うものの、動作や流れはスムーズに出来ており、一年生の成長を感じた。夜の反省会では出発時間の遅れが議題にあがる。
12月1日 雪訓 吹雪後曇り	八方池BC～丸山ケルン手前～八方池BC～BC周辺～八方池BC 朝から猛烈な風が吹いている。予定では唐松岳往復であるが、厳しい気象条件となった。様子を見ながらの行動を開始する。丸山ケルン手前の森林限界付近で引き返す事を決める。理由としては、ケルンより上は風をしのげる場所が唐松岳頂上山

	荘までないからである。 B C 周辺に戻り天候の様子を見る。10 時 30 分頃から天候が安定してきたので、テント内でビーコンの操作説明を再度行い B C にて雪訓を行う。初めに F I X を 9 ピッチ伸ばし F I X の再確認を行った。F I X 訓練を終えると次はビーコン搜索訓練に取り掛かった。下界では練習を行っていたものの、実地となるとやはり勝手が違うようで、悪戦苦闘していた。一番遅い者で、埋没者も掘り出すのに 35 分近くかかっていた。その流れで埋没訓練を行った。いかに搜索の迅速化が重要であるかを十分に理解出来たと思う。
1 2 月 2 日 晴れ 唐松岳アタック	八方池 B C ~ 唐松岳 ~ 八方池 B C ~ B C 周辺 ~ 八方池 B C 前日の悪天候とは打って変わって、綺麗な星空を眺めながらの行動開始となる。唐松岳までは特に問題点もなく行動を行う。頂上山荘では立教山岳部と会った。坦々と山頂を踏み、B C に戻る。ラッセルは終始膝下程度。B C に戻った所で時間が余っていたので雪訓を行う。F I X 訓練を重点的に行い、12 ピッチ程行った。B C に戻るとテントの整地を再度行い、風防も強化しなおした。夜の反省会では、なかなか改善されない出発時間の遅れについて、一年生は上級生からきつい言葉を受けていた。
1 2 月 3 日 (月) 曇り	八方池 B C ~ 八方池 ~ B C 周辺 ~ 14:00 八方池 B C 撤収をしてからの行動となった。八方池山荘にて関・賀来と別れる。往復組は引き続き行動を続ける。最初の一往復は全員で行い、二本目は飯田と山浦で須郷・金原を挟み、横山は池田と共に行動を行った。飯田・山浦組で往復 40 分、横山・池田ペアで 55 分ほどかかった。しばらく休憩をし、行動を続行する。予定では三往復であったが、予定を変更して三往復目を止め、八方ケルンまで一度降り、そこからツェルト搬送訓練を行った。 まずは八方ケルンから 50 m ツェルトに包んだ要救を降ろし、さらに降ろした場所から八方ケルンまで一年生 3 人にて搬送を行わせた。八方ケルンでしばらく休んだのち、今度は B C までツェルト搬送を行う。一年生はチームワークと体力強化を意識出来たと思う。B C 周辺にてゾンデ搜索を行い、本日の訓練を終了した。
1 2 月 4 日 往復訓練 曇り後吹雪	八方池 B C ~ 八方池山荘 ~ 八方池 B C 前日と同様に撤収を行ってからの出発となる。朝からガスが濃く、風も強い。様子を見ながら一往復目を行う。八方池山荘にて山浦と別れた。往復組は B C へと向かう。一回目の往復が終了する頃だんだんと天候が悪化し始め、時間はまだ 9 時前であったが天幕を決める。10 時頃からは本格的な吹雪となり、テント周りの除雪を行う。風向きが変わったのか、除雪は一回ですみ、夜も風は強いものの雪は強くなかった。
1 2 月 5 日 下山 風強い雪	八方池 B C ~ ウサギ平 朝から風が強く、雪も多い。人数が少なさや、天候が悪い事もあり、出発時間が 20 分遅れる。ラッセルは腰程度まであり、多い所で胸近くあった。飯田と横山で交代しながら下山する。八方池山荘にて須郷のパッキングをやり直す。ここで隊を横山・池田・金原と飯田・須郷に分ける。横山組に先にいかせ、飯田組ペアはパッキングを直した後追いかける。八方池山荘からはトップでのラッセルを一年生にも行わせた。黒菱平に着く頃には一年生はヘトヘトになっていた。黒菱平からはスキーヤーが多くいるので、一列になり慎重にゴンドラ乗り場を目指す。

初冬合宿・総括

今回の合宿では、冬山に向けての訓練並びに冬山における体力、技術の最終確認を目的としており、一年の中でも非常に重要な合宿である。今回の合宿を振り返ってみると、後者の確認という面では非常によく行えた合宿であったと思う。しかし、前者の訓練という面では、しこりの残る部分がいくつかある。最大の問題点は、出発時間の遅れである。この問題は夏合宿から反省にあがっているが、一年生にはいっこうに変化が見られない。ここまでくると、今ある現状が彼らの限界なのかと、上級生も妥協しそうになってしまうくらいだ。正直、私自身は朝の5分程度なら行動自体にさほど大きな影響はないと考えている。しかし、それでいても、決められた時間に間に合わせる事の重要性には大きな意味があり、朝、出発時間に間に合わないという事は、その後の行動に対しての影響というよりも、決められた事を守れない。全力で物事に取り組めない。といった事と繋がってくると思う。ましてや一年生は、20分30分遅れるのではなく、5分や10分といった、努力次第でどうにでもなる遅刻をしている。これはまさしく、決められた事を守れない。全力で物事に取り組めない。といった事と同じであると思う。今の一年生は、技術による遅刻をしているのではなく、ハートつまり、やる気や精神的、そして物事に取り込む姿勢といった部分に問題があるように思える。これは、上級生の力にも限界があり、最終的には本人次第の問題となってくる。冬合宿に向けて、一年生は自分自身と深く向き合ってみてほしい。その反面、ロープワークは良くできていたり、F I Xも実戦で行えるようなくらいにスムーズに行えていたり、成長を垣間見る事も出来た。この成長が出発時間の遅れ等のミスによって隠れてしまっている事が残念でならない。一年生には、冬合宿に向けて何が足りず、何を補えばよいのかを、まずは自分自身で考えてみてほしい。冬合宿まで残り数週間、上級生と一年生、真剣に向き合っていきたいと思う。(飯田・記)

ザンスカール遠征隊報告

《隊の名称》

2012年 日本山岳会学生部ザンスカール遠征隊

J A C S t u d e n t Z a n s k a r E x p e d i t i o n 2 0 1 2

《目的》

インドヒマラヤ ザンスカールの未踏峰K H U T P A K A N G R I (6,165m)及びPT6045(6,045m)の初登頂

《期間》

2012年8月15日(水)～9月29日(土)46日間

《隊の構成》

隊長1名・学生4名・リエゾンオフィサー1名・スタッフ8名

《登山隊本部》

公益社団法人日本山岳会 学生部

担当理事：古野淳 〒105-0004 東京都港区新橋6-22-8 尾島ビル5階

(株)ウェック・トレック内

《スポンサー》

・ザ・ノース・フェイス 第1回海外エクспедиション支援プログラム

" THE NORTH FACE OVERSEAS EXPEDITION FUND " 平成24年採択登山隊

・日本山岳会 第27回海外登山基金助成登山計画 平成24年度

《登山を終えて》

「海外の山にいきたい」。僕はこの思いを胸に日本大学山岳部に入部しました。入部当初の部員数は僕を含めて一年生が7人、上級生が2人の構成でした。そして、3年目を迎える頃には2年生が2人に3年生の僕が主将となり計3人で活動を行っていました。このようにベストとは言えない環境の中、常に僕のモチベーションを支えていたのが「海外の山にいきたい」という強い思いでした。

そして3か月前の9月2日7時20分（インド時間）日本山岳会学生部を母体とした私達の登山隊は、北緯33度07分21秒・東経77度00分56秒にあり未踏峰であったPT6165に登頂する事が出来ました。PT6165にはKHUTPA KANGRI という名前を付け、現地の言葉で「可能性の山」を指します。「海外の山にいきたい」。入部当初から思い続けてきたこの夢を達成出来た今、何事も諦めない心、そして、夢を追いつける事の大切さを学べたと感じています。

最後になりますが、今回の遠征を行うにあたっての数えきれないご支援・ご声援等のご協力、本当にありがとうございました。

KHUTPA KANGRI (6,165m)

北東壁登攀ルート図



PT6045 (6045m) 北壁登攀ルート図



KHUTPA KANGRI (6,165m) 山頂にて



↑登頂日時
9月2日 7時20分
(インド時間)

「初登頂6000峰 命名へ」

(以下、右朝日新聞記事から抜粋)

日本山岳会の「学生部遠征隊」が今秋、(～中略)初登頂し、山の名前を「KHUTPA KANGRI (クツウパ・カンリ)」と名付けることを決めた。現地という言葉で「可能性の山」という意味。来年にも、インド登山財団(IMF)から認められる見込みで、将来的には地図に掲載される。無名の未踏峰は、IMFに申請すれば、登頂者が命名できることから、11月下旬にメンバー全員で話し合い名前を決めたという。



学生近況

部員構成

4年 飯田

3年 関、横山(学年4年)

2年 山浦(学年3年)

1年 池田、須郷(学年2年)、賀来、金原、宝迫(学年1年)

1年部員の田仲、小松の両名につきましては事情により退部。1年部員の宝迫哲史、11月に入部。

新入部員紹介

名前 宝迫哲史

学年 1年

学部学科 商学/商業

出身地 横浜市

出身高校 桜美林高校

高校部活 バトミントン



東丹沢日帰り山行

11月29日

鍋割山・塔が岳

(撮影・大谷監督)

日本山岳会学生部マラソン大会

第49回日本山岳会学生部マラソン大会

期 間) 11月10日

場 所) 東京千代田区の皇居外苑

メンバー) 関洸哉、賀来素直、金原守人、須郷直也



日本山岳会学生部クライミング大会（第1回学生部クライミング大会）

期 間） 11月11日

場 所） 神奈川大学

参加者） 関洸哉、横山裕、賀来素直、金原守人、須郷直也



富士山個人山行

期 間） 10月13日

場 所） 須走口往復

参加者） 大谷監督、池田、金原、須郷、賀来



富士山個人山行

期 間） 11月15日

場 所） 須走口ルート

参加者） L 大谷監督、関洸哉、横山裕

須走口駐車場～新六合目 7:10～本8合目 12:15～

須走口駐車場 帰着 14:00

↓ 写真 左：横山、右：大谷監督



関君、横山君 就職決定おめでとう！！！！

関 洸哉君
横山 裕君

警視庁
郵船トラベル株式会社



温故知新 ~ 山やの履歴書 ~



以前、日本山岳会の総会において本片山OBがスピーチを依頼され、そこでお話された内容が日本山岳会の広報誌に掲載されました。この度、「温故知新」は発行元の日本山岳会広島支部にご了解を得て、その時の講演会の書き起こしを掲載させていただきます。話は一気に太平洋戦争前夜にタイムスリップします。

私の登山・戦前編

「不帰二峰北東壁を初登攀」

本片山 数雄（1939年入部／専経）

少しばかり昔の話をいたします。

私の兄が大阪商大山岳部にいたので、私はその兄に感化されて山にはまりました。18才の頃、大山に誘われたのが最初です。この時ネールブーツを買ってもらいました。

山頂から縦走路に向かい馬の背をビビって越えました。その後縦走路は崩壊の危険から通行禁止になっております。その帰りに単身で道後山に登りました。

そして私が日大山岳部で本格的に指導を受け始めたのが昭和14年、今から68年前になります。初夏の穂高涸沢へ新人ふたりが、のちに有望なチーフリーダーになった先輩に指導されて入山しました。日大は山に入ったら黒いゲートルを着用するのが規則でした。靴はネールブーツ、ピッケルは雪の山で必要ですからシャフトが木製の門田のもの、ヤッケは綿布に防水したものを兄から借り、アイゼンは部から借りました。

まず池の平でグリセードとアイゼンテクニックを習います。見上げる岩壁は残雪に輝き空は真っ青という素晴らしい景色でした。北穂沢を見上げると黒い3点が見えました。リーダーが「ヤッホー、ヤッホー」と叫びました。ふた声ずつ叫ぶのが決まりです。それに呼応して、3点がスーッと動き下ってきました。先発の仲間ですが、思い出に残るシーンでした。この時はザイテングラートを登り穂高小屋で泊まりました。二階の窓から入り暗い寒い一夜を過ごしたあと翌朝奥穂高に初めてピッケルとアイゼンで登りました。小屋の下の急な雪渓を恐れながらも下り無事帰り着きました。

夏合宿は劔岳です。大部隊で大雨の中、3日ばかりでキャンプサイト三田平へ入りました。テントは10張りです。他の入山者は見当たりません。飯炊きその他の用事に、あとで“劔の大將”と言われた地元の佐伯文蔵が雇われていました。薪や水は豊富でキジ場は上方の這い松の中です。キジ打ちはご存知でしょうか。猟師がキジを撃つ時しゃがむところから生まれた隠語です。

向かいの雪渓でのグリセードはとくに滑落停止が目的です。初日は全員で山頂に登りました。カニのタテバイには太い針金がありました。今ではどの山にも鎖やハシゴがありますが当時はここだけに針金がありました。長次郎雪渓を下る時は古い部員が滑り止めをします。翌日からは分散登山でした。ハッ峰上、下半分や源次郎尾根です。ここの二峰に懸垂下降の場所を設けます。30mのアップザイレンをするのにマニラ麻のザイルを通し二重にたらすため鉄の輪がこしらえてありました。最近、部報を読んでいたら、昔は木の根でしたが古くなり鉄のものに日大が取り替えたと書いてありました。ザイルを肩に廻す肩がらみは重く、今のようにナイロンではないから苦労しました。部員はそのためチョッキを着ていました。ハーネス、エイトカン、ナイロンザイルのない時代です。

この合宿でふるいにかけると言われるように大半が辞めていきました。私は何とか付いていけそうでした。当時は交通事情が悪く南アルプスは余程の者でないと行けませんでした。

11月、恒例の富士合宿には翌年と合わせて二度行きました。突風にあおられないようにしながらアイゼンテクニックの練習です。頂上直下は急傾斜できつい練習でした。

翌15年4月29日から5月4日まで八方尾根北側で唐松岳北方にある不帰の岩壁登攀に一夜ビバークする山行参加しました。二峰東壁です。このことについては戦後、東京独標登高会からたびたび私に問い合

わせがありました。この会は集中登攀をしていて昔の記録から登攀誌クロニクルを作るのに当時のメンバー4名のうち生き残りが私だけだったからのようです。各登攀初ルートは甲南大学ルート、大阪薬専ルート、日大ルートだと言っておられました。日大ルートについては「日本登山大系・後立山編」(白水社)「日本登山史年表」(山と溪谷社)に、「北ア不帰二峰北東壁」として記載されています。「日大山岳部80周年記念誌」にも詳しく記載されております。

夏山は徳本峠を越えて穂高涸沢へ入ったこともあります。北穂沢下部がキャンプサイトでした。当時は外米になり炊きつけに注意を要する時代です。そして炊事班長をやらされる頃でもあります。登攀はジャンダルムや北尾根5、6の科尔から三峰チムニーをネールブーツ、ノーザイルで登り奥穂を廻って帰るグループに入るようになりました。

秋には岳沢から逆層を登り明神岳山頂より三本槍を経て松高ルンゼを下るパーティーに参加しました。使い古したネールブーツのネールが飛びました。「上高地、徳本峠の紅葉が綺麗だった」「足に豆が出来た」と山日記に書いております。

昭和16年、日支戦争が緊迫し、山岳部の活動は自粛となり春山合宿は東北の飯豊山に移りました。これを境に夏山合宿はおこなえず各自が“隠れ山行”をしていました。

12月8日、第2次世界大戦となり、われわれ男子は20才で徴兵検査を受けることになりました。学生の徴兵延期の特典はなくなりましたが理工系は1、2年遅れたようです。

私はあと3ヵ月を残し繰り上げ卒業となり昭和17年2月に軍隊に入りました。広島砲兵隊でしたが幸運にも1年の短期で再び上京し就職しました。東芝系列のタンガロイバイトという軍に納入する会社で終戦の年までここに勤めました。

その間、山岳部現役は身体向上とかで合宿が出来るようになり、私もOBとして劔岳の夏山合宿、春の五竜岳、谷川岳などに行きました。しかし東京空襲前に胃腸障害で休養のため会社を辞職し郷里の呉に帰りました。新たに軍需工場に勤め始めたばかりで二度目の招集が来ました。6月末に広島の部隊で支度をして九州で勤め出したのが7月でした。幸運というべきか原爆にあわずそこで終戦を迎えました。以上、戦前について話しましたがそれ以降も引き続き山行を重ねて参りました。機会があればまたお話をさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。(次号、後編に続く。)

「復興を目指す東北の高校生富士登山のボランティアに参加して」2012年7月21日、22日

原田 洋

日本大学山岳部・桜門山岳会としてこの度の震災に対し何か出来ないかを模索していた時、桜門山岳会OBでもあり現日本山岳協会神埼会長から本ボランティアに参加願いたいとお話を伺い、学生1名(横山3年部員)、OBより嵯峨野、原田、村木、大谷の合計5名が参加、我々のミッションとして安全且つ高校生全員が頂上に立てる様最大のサポートをする事を確認、嵯峨野OB、原田が最後尾の後方支援を担当し、無事全員の登頂を果たせたことは最大の喜びであった。不運にも天候が雨交じりのハッキリしない天気、東北から来られた70名の高校生にとっては可也厳しい富士登山と成ったが1名の脱落者もなく各々の高校生が何らかの思いを持って登った事は意義の有る事だと信じたい。彼らの今後、9合目の苦しい登りを思い出して、苦しさの中に達成感があることを感じて頂ければ幸いです。

編集後記

編集担当としては出来る限り幅広く各OBの方々に温故知新として原稿を寄稿して頂ける様お願いしていますが、何かトピックス、近況等是非編集者まで問い合わせ頂きたいお願い致します。また、学生の活動報告及び今後の計画などをOBの方々に理解して頂ける様努力しておりますが是非ご意見等ありましたら賜りたくお願い申し上げます。(編集担当：若林、原田)